

報道関係者 各位

平成 24 年 2 月 22 日

【照会先】

大臣官房統計情報部社会統計課縦断調査室

室長 福元 俊成(内線 7571)

室長補佐 相原 陽二(内線 7593)

中高年者調査係(内線 7594)

(代表電話) 03-5253-1111(内線 7594)

(直通電話) 03-3595-2323

第6回「中高年者縦断調査(中高年者の生活に関する継続調査)」の結果 ～対象者の団塊世代の多くは健康で働く意欲が高いことが明らかに～

厚生労働省では、このほど、同じ集団を対象に毎年実施している「中高年者縦断調査(中高年者の生活に関する継続調査)」の第6回(平成 22 年)結果を取りまとめました。今回は縦断調査の特性を生かし、50代をどのように過ごせば、高年齢期に健やかで充実した生活を営むことができるか、特に団塊の世代を含む60歳以上(60～64歳)の男女に焦点を当て、就業意識とその実態や健康状態について分析しました。

「中高年者縦断調査」は、平成 17 年 10 月末に 50～59 歳であった全国の中高年者世代の男女に対して、家族の状況、健康の状況、就業の状況などを継続的に調査し、高齢者対策などの厚生労働行政施策のための基礎資料を得ることを目的としています。第6回調査では、平成 17 年度の第1回調査から継続して協力が得られた 25,157 人について集計しており、調査対象者の年齢は、55～64 歳となっています。

【調査結果のポイント】

以下はいずれも、第6回調査時に 60～64 歳の男女、13,792 人の回答について分析した結果。

1 就業希望と実態

第1回調査(55～59 歳)時に、60～64 歳の時点で「仕事をしたい」と希望していた人のうち、今回の調査で「仕事をしている」人の割合は 74.8%。その理由としては、「現在の生活費のため」など生活費に関わる理由が最も多いほか、「健康を維持するため」、「今の仕事が好きだから」、「社会とのつながりを維持したい」などの回答が多い。(3頁 表1、4頁 図1)

2 65 歳以降の就業希望

今回の調査時に仕事をしている 60～64 歳の男女のうち、65～69 歳の時点でも「仕事をしたい」と回答した割合は 56.7%、70 歳以降でも「仕事をしたい」割合は 28.7%。(5頁 表3、6頁 表4)

3 生活のまかない方の希望と実態

第1回調査時に、60～64 歳の時点での生活を、主に「本人が働いて得た所得」でまかなうつもりだった人のうち、今回の調査時の収入の中に「働いて得た所得」がある割合は 70.9%。一方、主に「公的年金」でまかなうつもりだった人でも、収入の中に「働いて得た所得」がある割合は 46.5%で、特に男性は 60.4%と高い。(8頁 表5)

4 健康維持のために心がけていること

今回の調査で健康状態が「よい」と回答した人の割合は 79.4%。中でも、第1回調査時から継続して健康維持のために心がけていることが「適度な運動をする」、「年に1回以上人間ドックを受診する」、「ストレスをためない」とした人は、割合が高い。(11頁 表8)

詳細は、別添概況をご覧ください。